

今も残る観音様

先に紹介した道徳小学校『創立 50 周年記念誌』から。 — 「このお寺はなあ、昭和 10 年ごろ建てられたんだが、昭和に入り区画整理のすんだ土地には、家や大きな工場ができてきたがその時、観音山もつくられたんだ。そこに『干拓地の海のまもり神』として、その頂上に、観音様が建立されたんだよ。」「観音山って、どんなところだったの。」「それは、ながめのいい所でなあ。コンクリートでつくられた山の頂上に登ると、遠く伊勢湾まで見ることができずばらしかったよ。山の中ほどには、松・桜・かえでなどが植えられきれいだったよ。それになあ、人造の滝や大きなスケート場もあり、おじいさんもなん度も遊びに行ったもんだ。」「おじいちゃん、どうして、観音様が東昌寺に祭られているの?」「それはなあ、第二次世界大戦の空襲では、道徳の町も焼け野原になったが、観音町だけは焼け残こってなあ。観音町の人たちは、『観音様が町を守ってくたさった』といって感謝し喜んだが名古屋棧橋倉庫株式会社という道徳学区のためにも力になってくれた会社が解散してしまっただけでな。そのため観音山は、全部取りこわされたが観音様は、東昌寺にまつられたんだよ。」

観音山のことが気になっていたとき、偶然『南区の歴史ロマンをたずねて～旧街道のなぞに迫る』のなかに、観音山と観音像の写真を見つけた。昭和 5 年(1930)頃、観音町 1 丁目に小山(高さ約 15m)が築かれた。内部は空洞で人工スケート場、外部は土盛で頂上に楊柳観音(高さ約 6m)、南側に 10m 位の滝もあり、下は小プールになっていた。昭和 11 年(1936)5 月 18 日に観音像の開眼供養が行われ、地域のシンボルとして参拝する人が多かった。しかし、昭和 39 年(1964)に開発した名古屋棧橋倉庫の解散により、観音山は解体された。

近くの京枝屋酒店の伊藤忠夫氏は「私がこの地に来た昭和のはじめは、まわりは畑やたんぼがあり商売ができるかどうかと思いました。観音山ができたころには飲食店が数軒あり、スケート場ができたころは若い子がよく通り、観音山はデート・小学校の遠足の場所としてにぎわいました。道徳通に映画館もできこれからこの地域が発展すると思ったとき戦争・地震などがありさびれてきました」と話す。

(2016 年 8 月 27 日)

